

《公開講演会記録》

光緒帝を殺したのは誰？

中国社会科学院边疆史地研究中心 副研究員 呂文利



みなさん今日は。呂文利と申します。出身は中国の内蒙古自治区の赤峰市です。中国人民大学で博士の学位を取った後、中国社会科学院边疆史地研究中心に入り、現在、副研究員です。

今年、中国政府派遣の訪問学者として東京大学に1年間、留学しています。専門は边疆史と清（代）史です。

ところで、皆さんもご存じだと思いますが、パレスチナの前の指導者、アラファトの死は毒殺だったのではないか、という疑いが持たれています。その最も大きな理由は彼の衣服から放射性物質が検出されたからです。歴史上では実際に多くの指導者が毒殺されています。清朝の光緒帝もその中の1人です。

光緒帝の生涯

光緒帝（1871〜1908）は清朝の最後から2番目の皇帝で、彼の前には10人の皇帝がいます。並べてみますと、まず清の太祖ヌルハチ（努爾哈赤）、太宗ホンタイジ（皇太極）、世祖順治帝、聖祖康熙帝、世宗雍正帝、高宗乾隆帝、仁宗嘉慶帝、宣宗道光帝、文宗咸豊帝、穆宗同治帝です。光緒帝の前はすべて父から子への継承でした。光緒帝の時だけは同治帝に男子がいなかったために、父方の従弟である光緒帝が即位したのでした。その光緒帝にも子どもがいまませんでしたので、甥の溥儀が即位して、清朝最後の皇帝、宣統帝となりました。

わけにはいかなない人間に慈禧シがいます。世に「西太后」と言われます。慈禧は咸豊帝の妻で咸豊帝との間に1人の男子をもうけました。後の同治帝です。1861年に咸豊帝が死去し、同治帝が即位しましたが、まだ6歳でしたから、慈禧が垂簾聴政（摂政）を始めました。1875年にわずか20歳で同治帝が病没しますと、同治帝には皇子がいまいませんでしたから、慈禧は垂簾聴政を続けるために、自分の甥の載湉サイテンを選んで帝位につけました。これが光緒帝です。

光緒帝の本名は愛新覺羅・載湉。1人の親王の子どもですから、本来は皇位とは無縁の人間です。同治帝に子どもがいなかったために慈禧太后に選ばれてたまに第11代皇帝となったのでした。時に4歳、宮中に入った時は熟睡中でした。光緒帝の父親、奕譞イテンは道光帝の第7子

光緒帝を語るにはどうしても触れない



光緒帝

明治維新のような改革を實行して、清朝を強国に変えようという変法自強運動でした。しかし、そのような変法は王侯大臣たちの利益に影響しますから、慈禧太后をはじめ保守派の反対に遭い、光緒帝が主導した改革は失敗します。この後、光緒帝は慈禧太后によって中南海の瀛台に、亡くなるまで10年間軟禁されてしまいました。

1908年（光緒34年） 11

で、咸豊帝の弟です。光緒帝の母親、つまり奕譞の妻は、慈禧太后の肉親の妹でした。ですから載湉は慈禧太后の内縁、外縁両方の甥でした。ですから慈禧太后にとって光緒帝を抑えることは容易です。大清政権を支配するために載湉を選んで帝位を継がせたのです。

この時、慈禧はすでに政務をとること13年、威信を確立していました。その彼女が載湉を後継者に選んだ時、反対する人間はいませんでした。こうして載湉は清朝の第11代皇帝となったのです。

しかし、光緒帝が成長するにつれて、彼と慈禧の間の権力闘争が顕在化してきました。光緒帝が19歳になると、慈禧は

自分の弟の娘、エホナラ（葉赫那拉）と結婚させます。このエホナラが後の隆裕皇后です。隆裕皇后は容貌が醜く、猫背でしたから、光緒帝は嬉しくなかったのですが、慈禧の意思ですからどうしようもありませんでした。慈禧は望み通り隆裕を通じて光緒帝を支配することになりました。

光緒帝にも自らの主張があり、弱いままに甘んじてはいませんでした。1898年、戊戌の変法を發動します。戊戌の変法は日本の



西太后

月14日の夜、わずか38歳の若さで光緒帝は突然死亡します。そして翌日の午後、中国に強大は影響力をふるった慈禧太后も74歳で亡くなりました。2人の死亡時刻は20時間と離れていませんでした。これは偶然でしょうか？ これについては従来たくさん伝説や見方があります。

死因についての諸説

○病死説

この説は一般に『清徳宗実録』、すなわち光緒帝の実録など正史の見方です。光緒帝はずっと体の具合が悪く、光緒34年にそれが悪化して死亡したとするもの

です。

○袁世凱による毒殺説

これは最後の皇帝、溥儀の著書『わが半生』が書いているもので、1人の太監（宦官）が「死ぬ前日、光緒帝は大変元気がだった。ところが袁世凱が届けてきた薬を飲んだとたん、ひどい腹痛に襲われた」と言うのを聞いた、というものです。

○慈禧による毒殺説

これは『清室外記』『清稗類抄』『崇陵伝信録』などに記載されているもので、慈禧の体調がすぐれないと聞いて光緒帝が喜色を表したことを知った慈禧が激怒して、「私が先に死ぬわけにはいかない」と、太監を派遣して光緒帝を毒殺したというものです。

1938年、光緒帝の陵墓が盗掘にあいました。さいわい遺体は無事でした。2003年、中国では専任調査班をつくり、高度な科学技術の手法を使って、光緒帝の頭髮、衣服について調査、分析を行いました。

その結果、光緒帝の頭髮には現代の健康人の2000倍以上もの砒素が含まれていました。死因の最終結論は砒素中毒です。

毒物は三酸化砒素、分子式はAs₂O₃。無味無臭で常温では固体で、白色の粉末

状です。ですから容易に食物に混入させて、人に食べさせることができます。

砒素の毒性は強く、中毒すると気分が悪くなり、嘔吐、腹痛などの症状が出ます。その後、低血圧、頭痛が加わり、大量に摂取すれば、急性の腎機能不全で死に至ります。

犯人は誰か

私は慈禧だと思います。なぜでしょうか。

証拠の1 光緒帝は光緒34年10月21日（西暦1908年11月14日）に死亡しました。その10日前、10月10日は慈禧の誕生日でした。光緒帝は文武百官を引き連れて長寿のお祝いに行くことにしていたのですが、慈禧は来なくてもよいと言ったのです。これは人々を驚かせました。この頃、光緒帝は正常に歩くことができたのに、来なくてもいいと言ったのは光緒帝殺害への布石が感じられます。

証拠の2 10月10日から慈禧の体調は悪化しました。そこで彼女は光緒帝の体もよくないという世論を作ろうとしたのです。彼女は光緒帝の体調が当時まあまあで、いくらかの日常的な活動はできることを知っていました。しかし、光緒帝



光緒帝の墓所

は体の状態が悪いと言って、全国から名医を集めて光緒帝を診察させました。これは慈禧が光緒帝を謀殺するための準備として、病死の体裁を整えたのです。

証拠の3 光緒帝の死後、納棺などの儀式は本来は内務府が行うことになっていました。清代に内務府が設けられたの



光緒帝の棺

は、もっぱらそういう皇室内のことを扱ったためでした。ところが光緒帝の死後、納棺などは突然、太監が行うことに改められました。これは理屈に合わない非常に奇妙なことです。

このほか、当時、光緒帝を毒殺できる力を持っていたのは慈禧1人でした。清朝の専制体制は非常に厳密で、権力は至上の皇権に集中しており、すべてのことは皇帝の一言で決まりました。そして、

当時、その皇権は慈禧の手に握られていて、光緒帝ではありませんでした。皇権の代表は慈禧だったのです。ですから彼女がだれかに命令したことは大臣あるいは太監でも反対できません。命令は執行されます。ほかの人間は光緒帝を毒殺せよという命令は出せません。そんな権力は誰にもないし、誰もしようとも思わず、またできないことだったのでした。

先に犯人候補として触れた袁世凱は当時、勢力はまだ大きくなく、光緒帝に接近するチャンスはありませんでした。まして袁世凱が皇帝に薬を送り、それを光緒帝がすぐに飲んだなどということはあり得ません。皇居内には厳格な検査制度があったからです。

したがって、さまざまな状況からして、光緒帝を殺害した犯人は慈禧でしょう。ただ私は歴史資料にもとづいて推測しただけです。犯人が本当に慈禧であったかどうかは、より有力な証拠の発見に待たなければなりません。

結論として、光緒帝は砒素で毒殺されました。これは学者が現代の科学的、技



光緒帝が軟禁された瀛台

術的手段によって証明しました。しかし、歴史の真実をはたしてどうだったか。さらに進んだ研究が必要です。
(7月27日・東北フォーラム)

講師略歴(ろぶんり)

1980年 中国内モンゴル自治区

赤峰市生まれ(モンゴル族)

2007年 中国人民大学博士学位取得

専門は清朝史・边疆史

現在 中国社会科学院边疆史地研究所

副研究員 国家清朝史編纂委員会研究員